

# 発表スライド

山下クラス一班

## 【テーマ】

「女性が社会で活躍するために私たちができること」

## 目次

1. 女性自身が活躍している自覚がない
2. そもそも女性であるということを意識する意味
3. 社会と個人
4. 男女の強みを発揮できる環境
5. 強みを活かすことで生まれるプラスの効果

# 1. 女性自身が活躍している自覚がない



女性が活躍していないことを前提にしたテーマ

はたして本当に活躍していないのか？

自覚がないだけ

自分の活躍を当たり前のようにとらえてしまっている

# 家事だって立派な活躍！

内閣府の試算では、

家事労働の年間評価額は約193万円、

時給換算すると約1,473円とされています

現代には、今の自分の強みや弱みを知る機会が少ない

**どうなれば活躍できているのかという基準を見直す必要がある**

他人と自分を比べてしまうのが女性の特徴でもある

## 2. そもそも女性であるということ意識する意味



「性別にとらわれることなく個人で捉えるべき」

性別による偏見を取り除き、誰もが平等に評価されることを目指す

**女性が活躍できていないと考えるのはおかしい**

性別を理由に、これらの選択を過小評価することは適切ではない

## 見つめ直すべき重要な課題

### 3．社会と個人

個人個人に合わせる事ができればこれ以上ないこと

しかし

現実的に考えたとき、

**社会が個人に合わせて動くことは不可能**

× 性別の違いで優劣をつける“差別”

○ 違いを理解したうえで適切に役割や、環境を整える“区別”

「差別」ではなく「区別」

## 4．男女の強みを発揮できる環境



まずは**男女の違いを理解し、**

**それぞれの強みを発揮できる環境を作ればいい**

男女それぞれの強みの例

女性：共感力が高い▶コミュニケーションが必要な場面で力を発揮

男性：理論的思考や課題解決力に優れている▶新しい事業の立ち上げや技術職の場面で力を発揮

差別をなくして平等に、という考えが世界的に広まっている

しかしそれでは何も解決しない

男女平等になれば、  
生物学的な能力に**差があるのに、**  
**同じ基準で評価されることになる**

そこで苦しむのは女性になるのではないだろうか？



**社会が個人個人に向き合うことは不可能だけど、個人個人がそれぞれ活躍しやすいように、生物学上の能力を考慮して男女で区別した枠組み(環境)を整えることは可能。**

## 5. 強みを活かすことで生まれるプラスの効果



この強みを活かすことで....

ひとりひとりが得意な分野で活躍できるように！

➡無理なく活動できる環境が生まれる

互いの特性の違いを尊重し補い合える！

➡より良い成果やパフォーマンスにつながる

**いきなり大きな社会を変えることは小さな私達には不可能**

**結局は自分たちが意識を変えるしかない**

**まずは自分から、**

**そして**

**自分の周りにいる身近な人から変わっていこう！**

**今回のワークを通して**

**すでに理解していたことを再確認することが  
できた**